

モモ病害虫の発生状況（8月） 調査地点：福島地域9園地、伊達地域9園地

（1）モモせん孔細菌病

8月の新梢葉での発生は、認められませんでした（図1）、調査外では新梢葉での発生が確認されています。秋期に降水量が多いと、翌年の春型枝病斑が多くなる傾向にありますので、秋期防除を徹底して、越冬菌密度の低下を図りましょう。

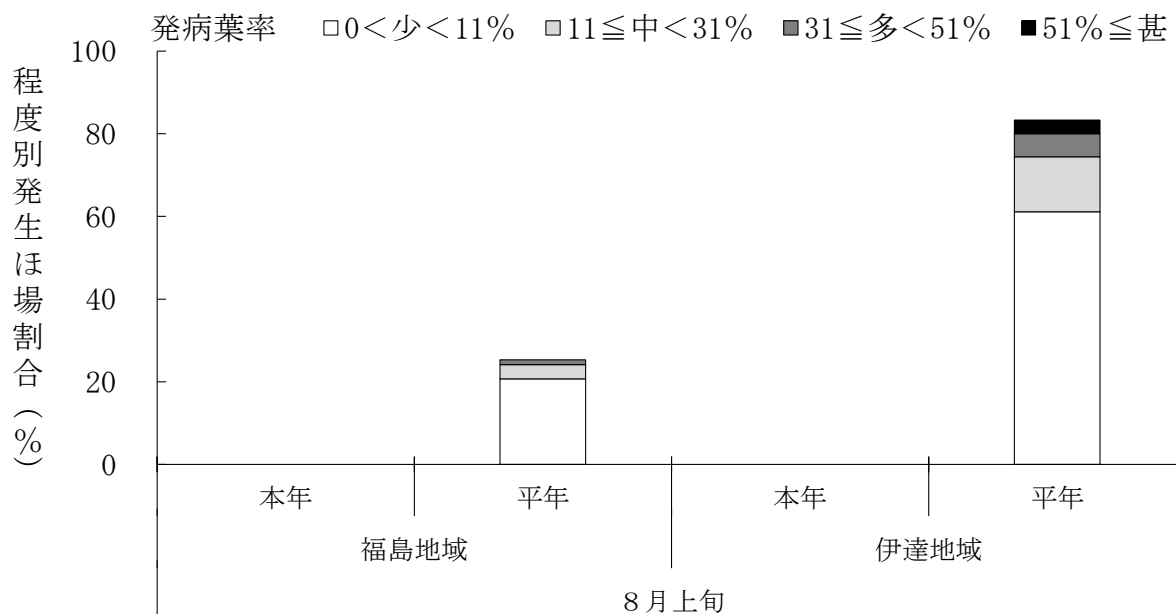


図1 モモせん孔細菌病の新梢葉での発生状況（8月上旬）

（2）ナシヒメシンクイ

新梢のナシヒメシンクイによる被害の発生ほ場割合は、福島地域は平年並、伊達地域は平年より高い状況でした（図2）。ナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺盛期は、気温が2℃ 高く推移した場合、8月1半旬頃と予測され、第4世代幼虫の防除適期は、8月2半旬頃と推定されています（農業総合センター果樹研究所、7月31日現在）。モモやナシの果実被害や近隣のモモやウメ等の核果類の芯折れの発生状況に注意し、県農作物病害虫防除指針や地域の防除暦を参考に、農薬使用基準を遵守し、中晩生種の防除を徹底しましょう。

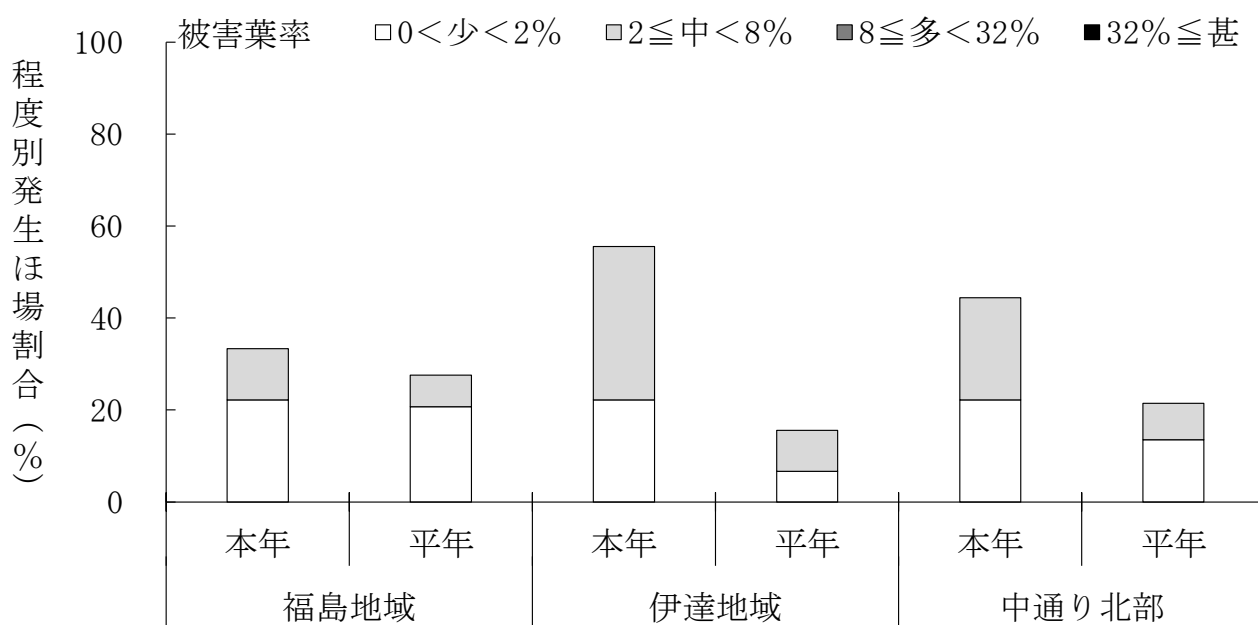


図2 ナシヒメシンクイによる新梢の被害状況（8月上旬）

(3) シロカイガラムシ類

農業総合センター内のウメほ場におけるトラップ調査の結果、ウメシロカイガラムシ第2世代と想定される歩行幼虫数が7月 23～30 日に前回から増加しており、発生ピークを迎えていると推察されます（図3、※昨年のピークは7月 16～24 日）。現在はモモの収穫期であるので、防除を行う際は、薬剤の選択（収穫前日数）に注意しましょう。

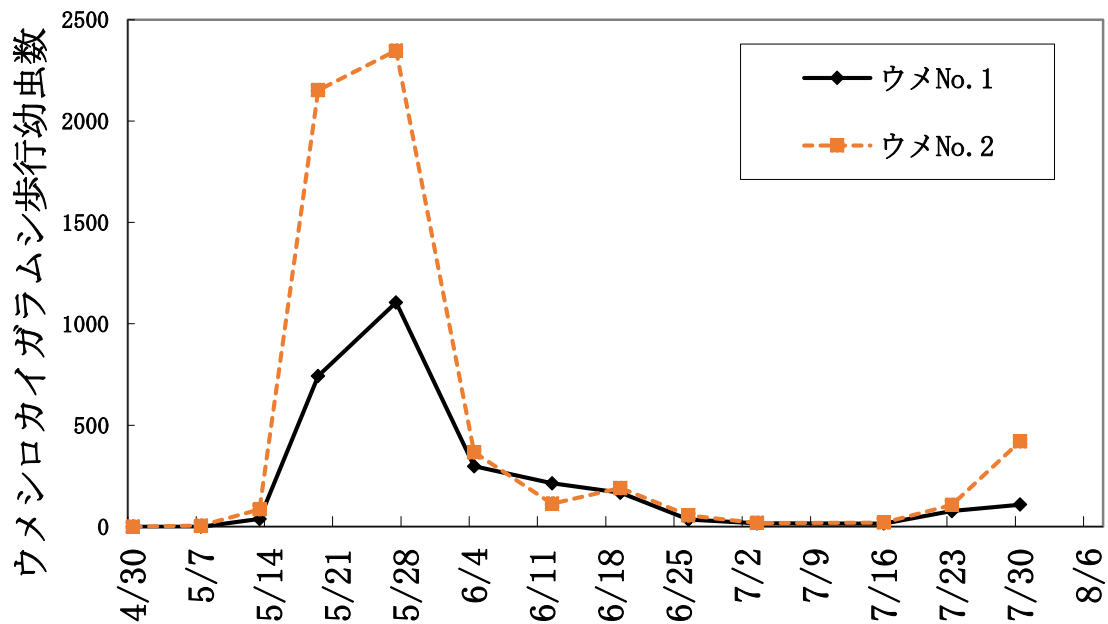


図3 ウメシロカイガラムシ歩行幼虫の発生状況（7月30日現在、農業総合センター）